

所管事務調査報告書



令和4年9月

野洲市議会
文教福祉常任委員会



令和4年9月29日

野洲市議会
議長 荒川 泰宏 様

文教福祉常任委員会
委員長 岩井 智恵



野洲市議会文教福祉常任委員会 所管事務調査報告書

野洲市議会文教福祉常任委員会(以下「本委員会」という。)では、令和4年第2回定例会において、「文化ホール3施設の集約化に伴う野洲市の文化行政の方向性及び施設の現状調査」を本委員会における所管事務調査事項と定め、調査を実施いたしました。

これまでの経過と調査結果について、野洲市議会委員会規則第23条の規定により下記のとおり報告いたします。

記

1. 所管事務調査の概要

(1) 調査期間

令和4年8月定例会最終日まで

(2) 所管事務調査事項

- ① 野洲市の文化行政の方向性の確認
- ② 野洲文化ホール、野洲文化小劇場、さぎなみホール3施設の現地調査

(3) 調査研究の目的

- ① 野洲市の文化行政の方向性を確認する
- ② 集約化の対象となっている、文化ホール3施設の具体的な建物や設備の現状の確認
- ③ 文化ホール3施設の集約化の根拠となっている、各施設の利用形態、利用率、収支状況、設備更新の課題等を確認し、集約化について検討する

(4) 調査研究の方法

- ① 野洲市の文化行政の方向性について、教育委員会関係部署への確認と聞き取り調査
- ② 現地において、現地責任者から現状の状況、課題を確認と聞き取り調査
- ③ 文化ホール3施設をさぎなみホールに統合する検討書について、教育委員会関係部署への確認と聞き取り調査

(5) 委員会開催状況

第1回	令和4年7月22日	教育委員会所管から調査及び現地確認の説明
第2回	令和4年8月19日	報告書の検討

(6) 執行部からの説明

教育委員会関係部署への調査及び現地確認の説明を受けた。

- ① 野洲市の文化行政の方向性について
 - ・教育委員会として文化・芸術に対する行政の方向性
 - ・市民説明会の意見を踏まえて、教育委員会として短期・中期・長期のハード面及びソフト面の方向性
- ② 文化ホール3施設の利用形態、利用率、収支状況、設備更新の課題等について
- ③ 集約化の対象の文化ホール3施設の建物・設備の現状確認について

(7) 委員構成

委員長	岩井	智恵子
副委員長	田中	陽介
委員	東郷	克己
委員	山崎	有子
委員	小菅	康子
委員	石川	恵美

(8) 調査のため出席を求めた説明員

野洲市教育委員会

教育部長	馬野	明
教育部次長	北脇	康久
野洲市文化ホール館長	中川	靖
野洲市文化ホール副館長	山本	之彦

2. 調査結果

(1) 調査の概要

令和4年7月22日(金)午前9時30分より教育委員会より「教育委員会として文化・芸術に対する行政の方向性」及び「市民説明会の意見を踏まえて、教育委員会として短期・中期・長期のハード面及びソフト面の方向性」並びに「文化ホール3施設の利用形態、利用率、収支状況、設備更新の課題等」について説明を求め、委員からの質疑を行った。

また、午後1時より野洲文化ホール、野洲文化小劇場、さぎなみホールの現状・課題等について現地確認を行った。



【説明・質疑】



【現地確認：野洲文化ホール】

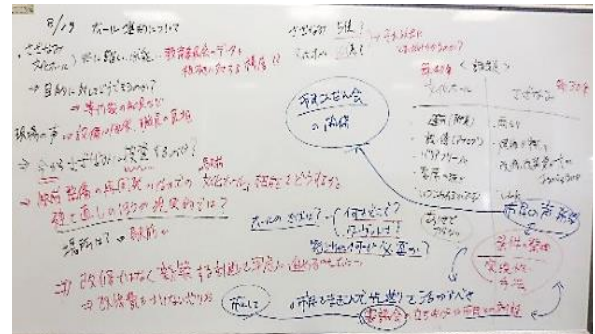
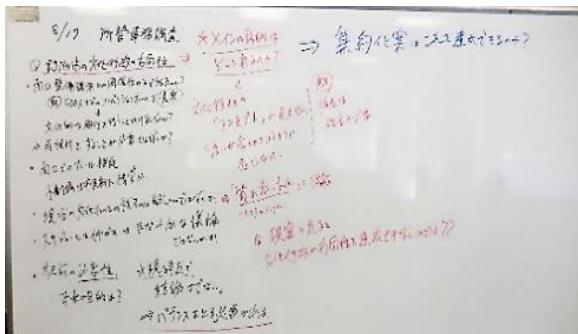


【現地確認：野洲文化小劇場】



【現地確認：さぎなみホール】

令和4年8月19日(金)午後1時30分より、常任委員会を開催し所管事務調査における意見交換・委員間討議により所管事務調査結果について議論を深めた。



(2) 野洲市の文化行政の方向性について

施策の方針は3点ある。

1点目は、市民が自ら学ぶ環境、そこで各分野に主な取組を挙げている。自ら学ぶ芸術・文化については、舞台芸術の鑑賞の機会を提供することと、各種教室で学ぶ機会を提供していく。それと、次代を担う子どもたちが文化・芸術に興味や関心を持つ機会を提供すること。

2点目は、学ぶことが活かされる仕組みづくり。各種教室で学び得た成果を発表する機会を提供していくことによって、学びが活かされる仕組み。若者への音楽の広がりや地域の演奏者の育成・発掘というのを図っていくこと。

3点目は、学びを通じてつながる機会づくり。地域の音楽関係者と共に若者への音楽の広がりや文化・芸術の向上というのを図っていくことが教育振興基本計画にも示されているため、計画に従い、各種事業を行っている。

また、当然市の文化行政ということをやっているのです、各種文化芸術団体と協働しながら、また事業を展開するなど活動を支援していく。(執行部説明より)

(1) 教育委員会として文化・芸術に対する方向性

① 基本的な考え方・主な取組方針

第2次野洲市総合計画、野洲市教育振興基本計画第3期、野洲市生涯学習振興計画第2期に示す文化芸術振興の方針に則る。

計画	内容(抜粋)
第2次野洲市総合計画、野洲市教育振興基本計画第3期	野洲市文化ホール3施設の集約化検討書の23ページに記載。
野洲市生涯学習振興計画第2期	第3章 計画の基本目標と施策方針 2 施策方針 (1) 市民が自ら学ぶ環境づくり 〈分野別の主な取組〉 ◎芸術・文化 ・舞台芸術を鑑賞する機会を提供します。 ・各種教室等を開講し学ぶ機会を提供します。 ・次代を担う子ども達が、文化・芸術に興味や関心を持つ機会を提供します。 (2) 学ぶことが活かされる仕組みづくり 〈分野別の主な取組〉 ◎芸術・文化 ・各種教室で学び得た成果を発表する機会を提供します。 ・若者への音楽の広がりや地域の演奏者の育成・発掘を図ります。

(3) 学びを通じてつながる機会づくり

〈分野別の主な取組〉

◎芸術・文化

- ・地域の音楽関係者等との協働等により、若者等への音楽の広がりや文化の向上・芸術の振興をめざします。

② 主な取組

- ・鑑賞機会の提供。
- ・活動の場、活動の機会の提供。
- ・成果発表の場、成果発表の機会の提供。
- ・文化芸術団体との協働と活動支援。
- ・次代の担い手の育成。

(2) 市民説明会の意見を踏まえて、教育委員会として短期・中期・長期のハード面及びソフト面の方向性

まず、野洲文化ホールは、施設・設備の老朽化によりこのまま使い続けることは困難である。リノベーションでは時代に合ったものや現施設の不足要素を満たすことは困難である。

- ① 著名なアーティスト等による公演の鑑賞は、他市や他府県の施設を利用してもらい、市としてその利用に対して何らかの補助制度を設ける。
- ② 市民の文化・芸術の振興を継続するため、一旦、さざなみホールに一本化して、野洲駅南口周辺整備構想の中で、新たなホール機能を持った施設の設置を検討する。

	ハード面	ソフト面
短期 (概ね5年まで)	・集約先施設の改修・設備の更新。 ※個別施設計画を基本とする。 ・野洲駅南口周辺整備構想におけるホール機能を持った施設の設置構想。	・集約先施設で可能な鑑賞型事業の実施。(買取事業・負担金事業の導入検討。) ・鑑賞事業補助制度の導入。
中期 (概ね10年まで)	・野洲駅南口周辺整備構想におけるホール機能を持った施設の設置。	同上。
長期 (概ね20年まで)	・集約先施設の法定耐用年数を迎える前に施設のあり方を検討。	同上。

【当日説明資料より】

■ 主な質疑応答

問 一旦さぎなみホールに一本化して、野洲駅南口周辺整備構想の中で新たなホール機能を持った施設の設置を検討するというが、行財政改革で一本化するという本来の目的からずれるのではないか。

答 市民の文化・芸術の振興、それと、市民説明会のご意見を勘案すると、さぎなみホール一本化というのではなかなか進みにくい面もあるのではないかという点と、利便性などの意見から駅前にも何らかのホール機能を持った施設は必要ではないかというふうなことを考える中でのことである。

問 除却についての見通しは。

答 教育委員会としては、管理の面からも、一定除却に対する除却債が有期限であることから、それを活用していきたい。小劇場のほうの野洲学区のホール機能の部分については、こちらのほうは野洲学区自治連合会、コミセンを管理している野洲学区自治連合会の意向等にもよるので、そういったことを踏まえ、そのまま市民部のほうに移管することも考えられる。あくまでこちらは教育委員会としての施設の部分での除却ということである。

問 この中期計画は現実的か。無理があるのではないか。

答 人口減少も鑑み、総合的な規模としては、今現在の規模よりは縮めた中で、施設としては、最終的にはさぎなみホールを除却の際に、建て替えかどうかというところは、そのときの議論になると思う。いずれにしろ、さぎなみホールをなくすとなれば、今度は、駅前のコンベンションホールということで、その1施設が最終的には残ってくると考えている。

問 野洲駅南口で提案されるコンベンションホールというのはどの程度のものなのか、専門的なホールではないはず。どのようなものにするのか、精査できているのか。

答 野洲駅南口構想の管轄については、政策調整部の管轄になり、今年度から具体的に進めるということは聞いているので、その中で、駅前に一定のホール機能を持った何らかの施設を教育委員会としては市長部局に提案していきたい。詳細については、政策調整部とこれから詰めていくことになる。純粹に今の野洲文化ホールそのままの機能を持った施設をそのまま新しく建設というのはなかなか難しい話なので、コンベンションホール、多機能で、利用される方も多く見込まれる施設にしていきたいというところで協議はしている。その中で話が出ているのは、民間活用した中でそういった施設を設けられないかなど、できるだけ行財政改革にも寄り添った中で、教育委員会としても今後協議をしていきたい。

問 「音楽あるまちづくり」をしていると実感するタイミングがないが、何か事業や補助などしていくということか。

答 市民活動団体が、月に1回程度、野洲図書館のホールを借りて活動いただいている。その活動に対して生涯学習スポーツ課から補助金を出しているもの。

問 特定の団体のことをいっているのか。

答 その通りである。

(3) 施設の現状と課題

「野洲市文化ホール3施設の集約検討書」を参照し、説明を受ける

個別施設計画というのは、令和3年から令和8年度間の一定6年間の間にこれだけは施設ごとに存続していく場合にやらなければならないという項目を挙げたもの。その中でもA、B、Cという3種類で表示しておりまして、Aが最も最優先でしなければならない改修項目、あとは、続いてB、Cというふうに3段階に分けている。ただ、こちらも、令和2年に策定したもので、それから2年過ぎていることから、どんどん日々施設も古くなっていきっており、状況も変わっているということをご理解いただきたい。

野洲市文化ホール3施設の集約検討書抜粋

【2】主な大規模な改修・修繕等項目と概算費用（単位：千円）

（令和2年度策定 個別施設計画より）

野洲文化ホール			野洲文化小劇場			さざなみホール		
順	項目	費用	順	項目	費用	順	項目	費用
R3	ワイヤレス機器更新	4,334	R4	ワイヤレス機器更新	2,800	R4	ワイヤレスマイクシステム更新	2,800
A	舞台照明設備更新(電源も含む)	314,710	A	舞台音響設備更新	132,660	A	屋根防水全面改修	45,000
"	キュービクル、防災設備等更新	35,000	"	舞台照明設備更新	72,820	"	吊天井改修	41,800
"	客席吊天井改修	41,800	"	キュービクル(受電)設備更新	15,000	"	空調改修(ホール棟、研修棟、事務所全部)	85,000
"	舞台音響設備更新	165,000	"	防災設備更新、防犯システム導入	7,500	"	防災設備(一元化)、キュービクル等更新	35,000
"	客席イス更新	27,500	"	バリアフリー化	11,088	B	舞台機構(吊物・袖幕等)更新	61,000
"	楽屋改修(照明LED化含む)	3,000	"	舞台機構(吊物・袖幕等)更新	12,100	"	各ドア改修(シリンダー交換含む)	15,000
"	屋根防水全面	30,800	"	屋根防水全面改修	15,000	"	ピアノ庫改修	2,000
B	舞台機構(吊物・袖幕等)更新	61,000	"	楽屋・通路照明LED化	1,000	"	トイレ改修(障がい者トイレ含む)	18,000
"	舞台下手袖拡張	50,000	"	玄関先地盤沈下改修	5,000	"	舞台音響設備更新	117,137
"	外壁タイル、建築内装改修	55,000	B	全トイレ改修	10,500	"	舞台照明設備更新(電源工事含む)	65,634
"	空調機更新	75,000	"	ピアノ庫設置	3,500	"	防犯システム導入	1,500

”	エレベーター設置	95,000	”	内装更新	4,500	”	内装更新	7,000
”	各所バリアフリー化	4,000	”	平台等設備更新	2,000	C	客席イス更新	20,000
”	玄関先タイル、大階段等改修	20,000	”	各席椅子更新	4,500	”	廊下床面・ホワイエ等カーペット張替	5,000
”	ロビー・待合所面積拡張	10,000				”	舞台床張替、平台等更新	6,500
C	トイレ改修及び増設(多目的トイレ)	40,000				”	駐車場拡張	5,000
”	搬入庫・ピアノ庫改修	5,000				”	エントランス照明改修	1,500
”	ホール事務所改修、防犯システム導入	8,000				”	駐輪場屋根改修(防水)	1,000
”	舞台床張替、所作台・平台等更新	6,500						
”	駐車場整備(白線引直含む)	3,000						
	合計	1,054,644		合計	299,968		合計	535,871

※内容は、3施設を存続する前提のものです。
 ※表の順はAを最優先とし、以下B・Cを表示。
 ※個別施設計画の期間は、令和3年度～令和8年度の6年間を対象としている。

こういったものが今回の集約化の中で施設の維持管理、更新の費用、大きな財政の負担になってくるというのが集約化の視点の1つに挙がっている。(執行部説明より)

■ 主な質疑応答

問 さぎなみホールの雨漏りがひどいということだが、それ以上に気になっているのが、床からしみ出てきているもの。屋根防水は概算に入っているが、床からの浸水の対策は概算には入っているのか。

答 残念ながらそこには正確な費用が入っておらないという認識をしている。この部分については一定認識しているので、改修の中ではやはり当然優先順位として入れていかなければならないと認識している。

問 シミュレーションというか、数字を出すのであれば、例えば集約という案を出しているのですが、集約した際にどういう収支になるかの想定。例えばこれぐらいの人数でこれぐらいの経費になってというのも同時にあると分かりやすいがどうか。

答 人事の関係、どのような管理体制になるかがあるので、収支、人件費についてまでのシミュレーションはしていない。あくまで現状の部分でこういう状況ですというふうなことで整理をしたものである。

(4) 現地確認より

【野洲文化ホール・野洲文化小劇場】

- バリアフリーができていない(トイレ等)
- 客席の間隔の狭さ
- 雨漏れ(ホワイエ等)
- 吊天井の老朽化
- アナログな音響、照明など



野洲文化ホール 1階トイレ入口



野洲文化ホール大ホール客席



野洲文化ホール2階ロビー雨漏れ



野洲文化ホール
大ホール吊天井構造



野洲文化小劇場ロビー天井雨漏れ



野洲文化ホール
アナログ照明

【さぎなみホール】

- 客席の浸水、搬入口雨水排水、地盤沈下
- 研修室の天井雨漏れやカビ(臭)
- 中央の水利の機能は構造的に修繕不可能
- 空調も効きにくい
- 屋根の防水工事は必須
- 各種利用できる部屋は多い



(5) 総括

■ 議員間討議

- 現状の市民感情として、再検討をする事が必要ではないか
- 南口でのホール機能をどのように設定するのが不明。
- 小劇場は、市民部に移管か。方針ははっきりしていない。
- 現在の文化ホールを残すのは難しいのではないか。
- スケジュールを延ばす⇒⇒まだ十分な議論はできていないのではないのか。
- コンセプトに想いが感じない。⇒予算ありきのプランではないか。
- 駅前の必要性は何なのか、文化行政として本当の目的は何か。
- 現状の案で目的達成できるのか、明確ではない。不安がある。
- 現時点で結論ではない。
- 市民を巻き込んだもっと幅広い議論が必要ではないか。
- 野洲文化ホール、さざなみホール共に難しい状態で、教育委員会のデータと根拠に対する精度を高めていかないといけない。
- 目的に対してどう出来るのか⇒⇒専門家の知見などが必要。
- 現場の声⇒⇒整備の限界、職員の負担をそのままにはしておけない。
- 今から、さざなみホールに投資をするのか。⇒⇒駅前整備の再開発の中での、「駅前文化ホール」機能をどうするのか。建て直しの方が現実的ではないか。場所は⇒⇒駅前が理想なのか。
- ホールの規模は⇒⇒何をどこで、ターゲットは何か、野洲市に何が必要か。
- 改修ではなく新築する計画を、早急に進める(改修費を掛けないやり方)。
- 文化ホール改修(10億円)、さざなみホール改修(5億円)それ以上どれだけか。

野洲文化ホール(築40年)	さざなみホール(築30年)
運用が危険で困難(職員)	天井 雨漏れ
整備(アナログ⇒デジタル)	構造が特種
バリアフリー化	改修、改装費が膨らむ懸念
客席の狭さ	浸水
機器がいつ壊れるかの不安	

- 設備の状況はどうか。⇒老朽化はどちらの施設も厳しい。
⇒特に野洲文化ホールはアナログな部分が多く、時代に合っていない。
- 部品もないのでこの状態で持続していくにはとても不安がある。⇒バリアフリーもできていない。
- 金額に関してもすべてではないのでは。⇒さざなみが5億、野洲文化ホールが約10億円とあるがそれ以外にもかかるお金はある。
- 市民の声、希望⇒⇒現実性手法⇒⇒市民懇談会
- 市民を巻き込んで先送り活かすべき。
- 市として、審議会の立上げや市民との対話(ありきでやらない)。

